9 歯と口腔の健康

(1)残存歯数

◆現在、自分の歯は何本残っていますか。【19 歳以上問 51】

残存歯数については、全年代の平均は 24.78 本となっています。

性別・年代別でみると、女性の方が平均残存歯数は多く、64 歳以下のすべての年代で「24 本以上」が 75%を超えています。65 歳以上では、75 歳以上の後期高齢者において男女とも「20 本以上」は 5 割を下回り、平均残存歯数が 20 本に満たない数となっています。

19 歳以上の残存歯数（性別・年代別）

単位：%

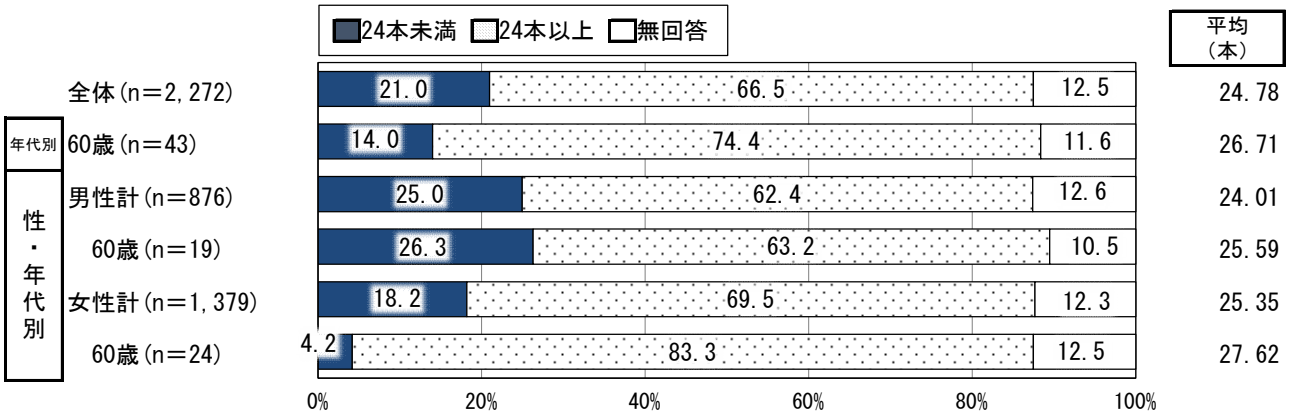
		サンプル数	24本未満	24本以上	無回答	平均（本）
全体		2,272	21.0	66.5	12.5	24.78
性・年代別	男性計	876	25.0	62.4	12.6	24.01
	19～29歳	111	1.8	74.8	23.4	28.98
	30～39歳	124	2.4	83.9	13.7	28.52
	40～49歳	106	15.1	72.6	12.3	26.73
	50～64歳	229	23.1	64.6	12.2	24.71
	女性計	1,379	18.2	69.5	12.3	25.35
	19～29歳	179	－	76.0	24.0	29.09
	30～39歳	209	1.0	80.9	18.2	28.56
	40～49歳	188	4.3	83.0	12.8	27.77
	50～64歳	358	16.8	76.0	7.3	26.10

単位：%

		サンプル数	20本未満	20本以上	無回答	平均（本）
全体		2,272	13.4	74.1	12.5	24.78
性・年代別	男性計	876	16.6	70.9	12.6	24.01
	65～74歳	202	31.2	62.4	6.4	20.59
	75歳以上	102	42.2	45.1	12.7	16.92
	女性計	1,379	11.1	76.6	12.3	25.35
	65～74歳	260	18.8	73.8	7.3	23.02
	75歳以上	184	40.8	49.5	9.8	18.49

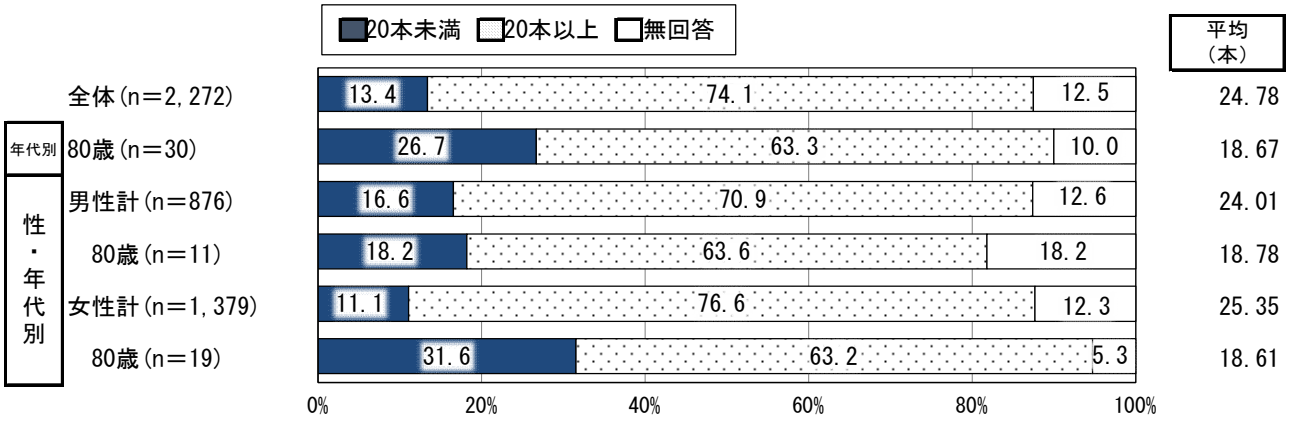
60 歳の残存歯数が 24 本以上ある人の割合は 74.4%です。

60 歳の残存歯数（性別）



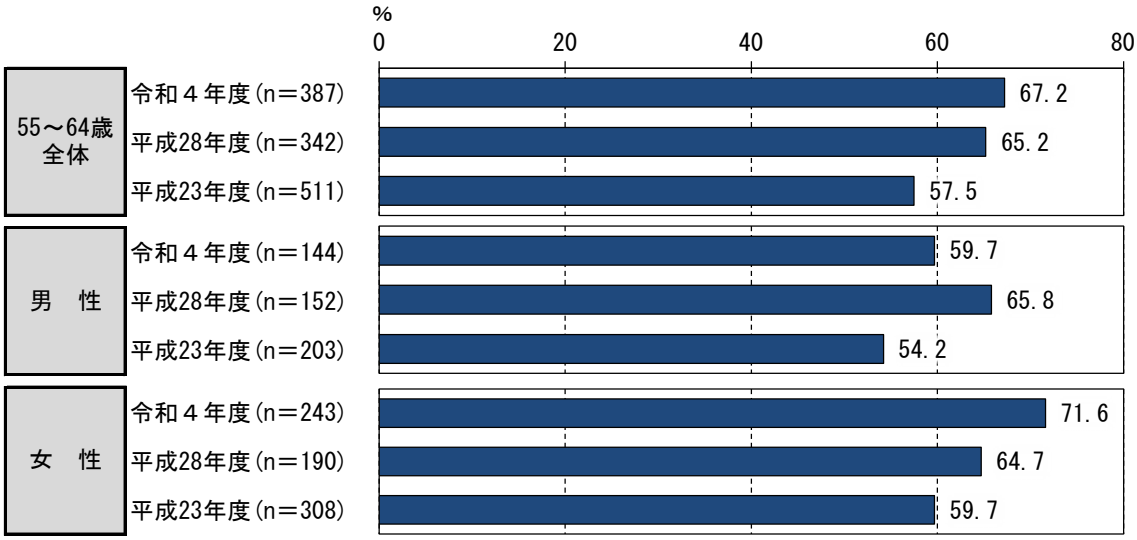
80 歳の残存歯数が 20 本以上ある人の割合は 63.3%です。

80 歳の残存歯数（性別）



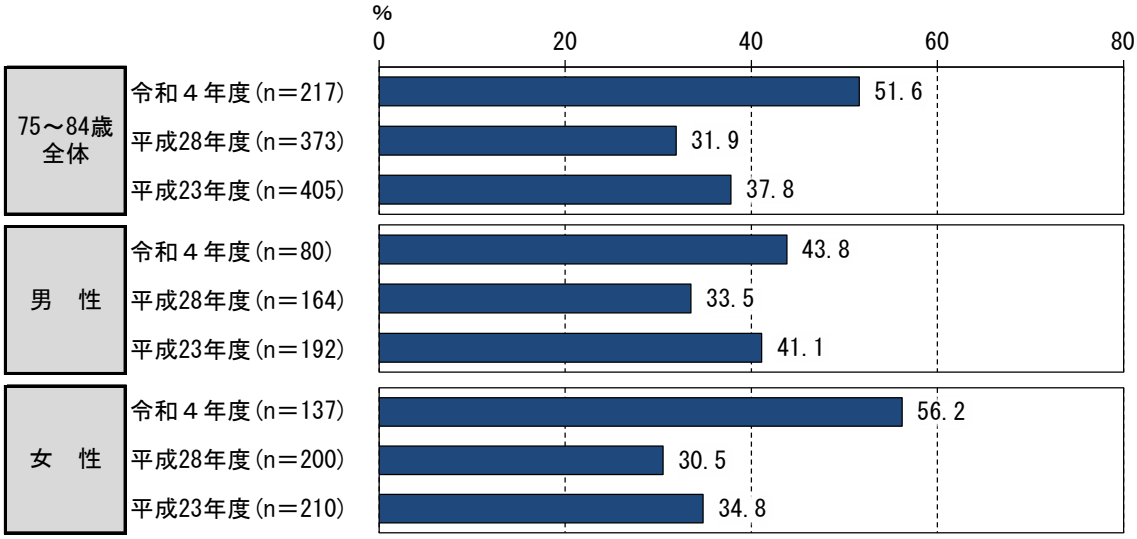
残存歯について、55～64 歳で 24 本以上自分の歯がある人の割合は 67.2%で、平成 23 年度の 57.5%、平成 28 年度の 65.2%と比較して増加しています。

55～64 歳の残存歯数が 24 本以上ある人の割合（性別、経年比較）



75～85 歳で 20 本以上自分の歯がある人の割合は 51.6%で、平成 23 年度の 37.8%、平成 28 年度の 31.95と比べて有意*に増加しています。

75～84 歳の残存歯数が 20 本以上ある人の割合（性別、経年比較）



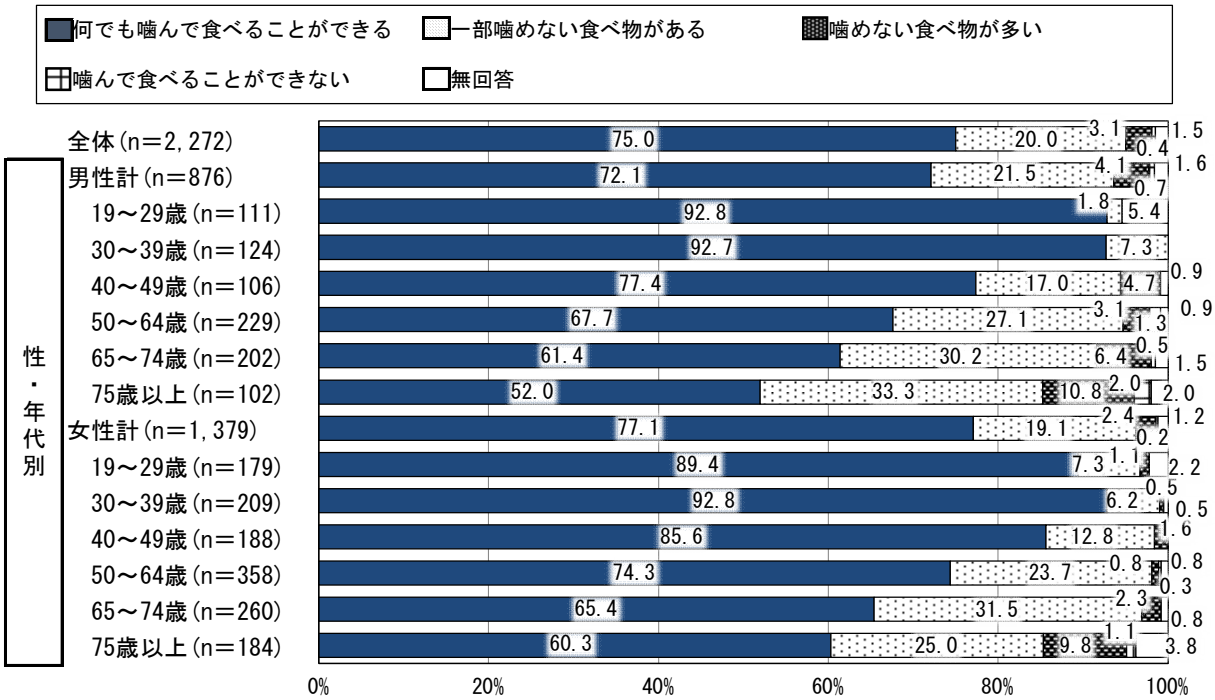
(2)咀嚼状況

◆しっかり噛むことができますか。(○は1つ)【19 歳以上問 52】

しっかり噛むことのできるかについては、「何でも噛んで食べることができる」が 75.0%で最も高く、次いで「一部噛めない食べ物がある」が 20.0%、「噛めない食べ物が多い」が 3.1%となっています。

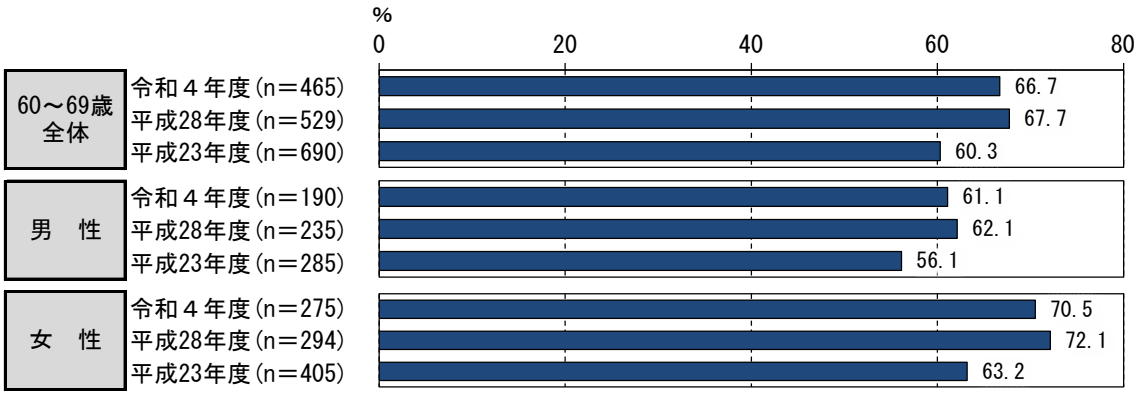
性別・年代別でみると、「何でも噛んで食べることができる」は年齢が上がるほど低くなっており、75 歳以上は男性で 52.0%、女性で 60.3%となっています。

19 歳以上の咀嚼状況（性別・年代別）



60 歳代における何でも噛んで食べることができる人の割合は、平成 28 年度の調査結果とほぼ同水準です。

60～69 歳で咀嚼良好者の割合（性別、経年比較）



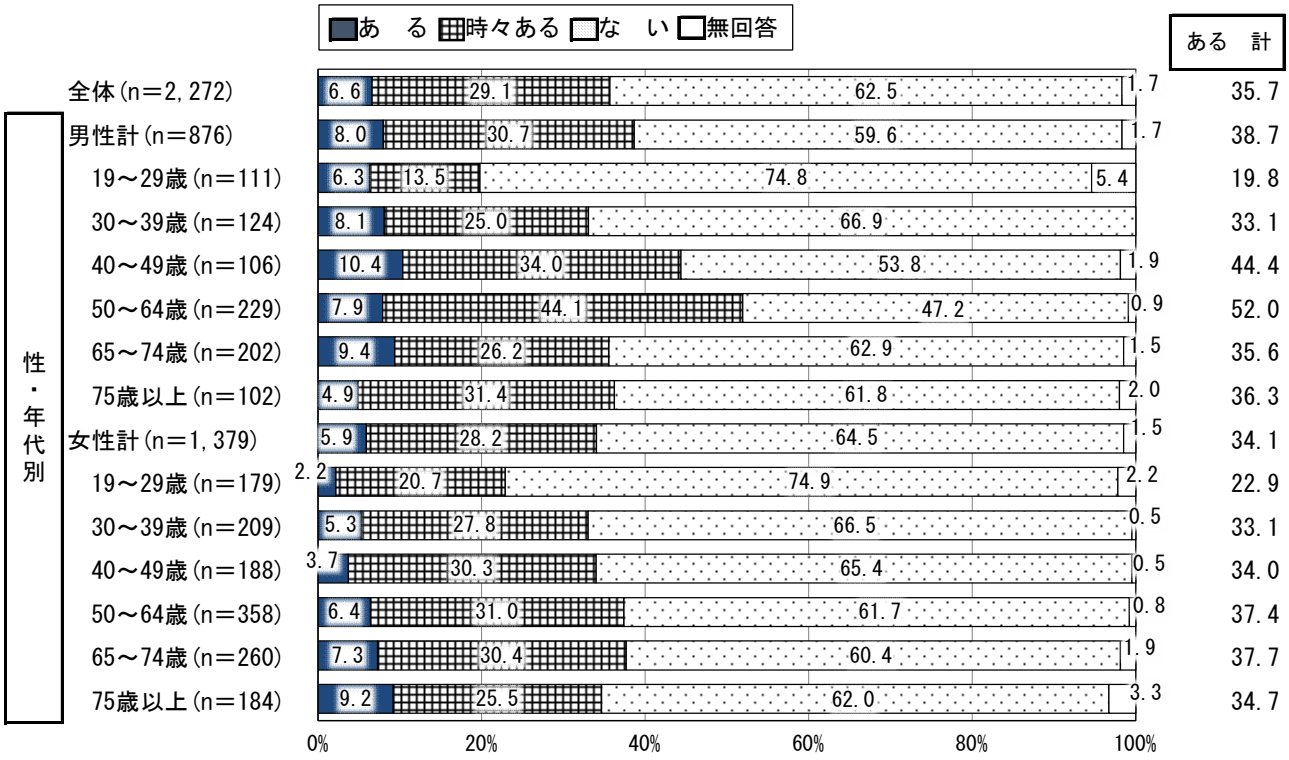
(3)歯ぐきの状態

◆歯ぐきが赤く腫れて血が出たりぶよぶよしたりすることがありますか。(○は1つ)【19 歳以上問 53】

歯肉に炎症所見を有する人については、歯ぐきが赤くはれて血が出たりぶよぶよしたりすることが「ある」と「時々ある」の合計値『ある』人の割合は、35.7%となっています。

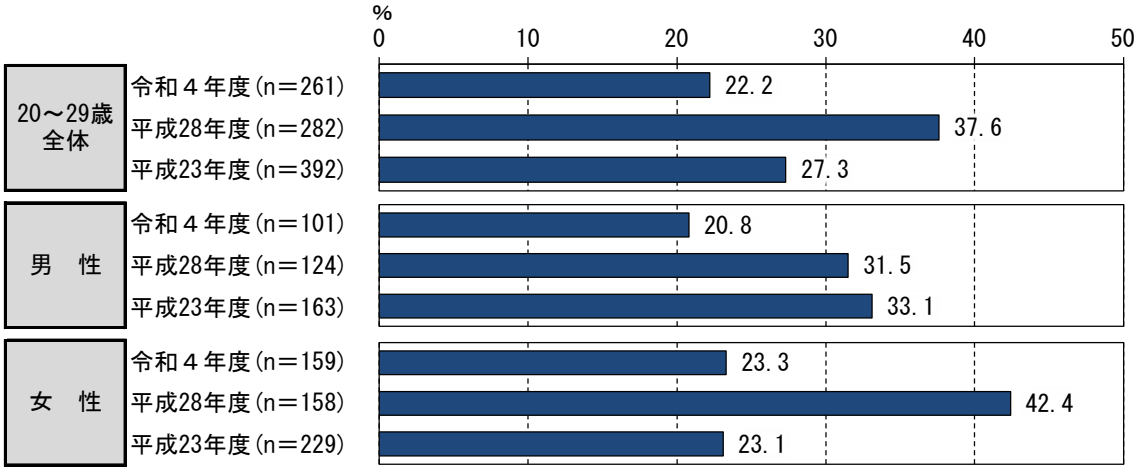
性別・年代別にみると、50～64 歳の男性が 52.0%で最も高くなっています。

19 歳以上の歯ぐきの状態（性別・年代別）



20 歳代における歯ぐきが赤くはれて血が出たりぶよぶよしたりすることが「ある」「時々ある」人の割合は、平成28年度から令和4年度の6年間で、有意*に減少しています。

20～29 歳の歯肉に炎症所見を有する者の割合（性別、経年比較）



(4)歯科健康診査の受診状況

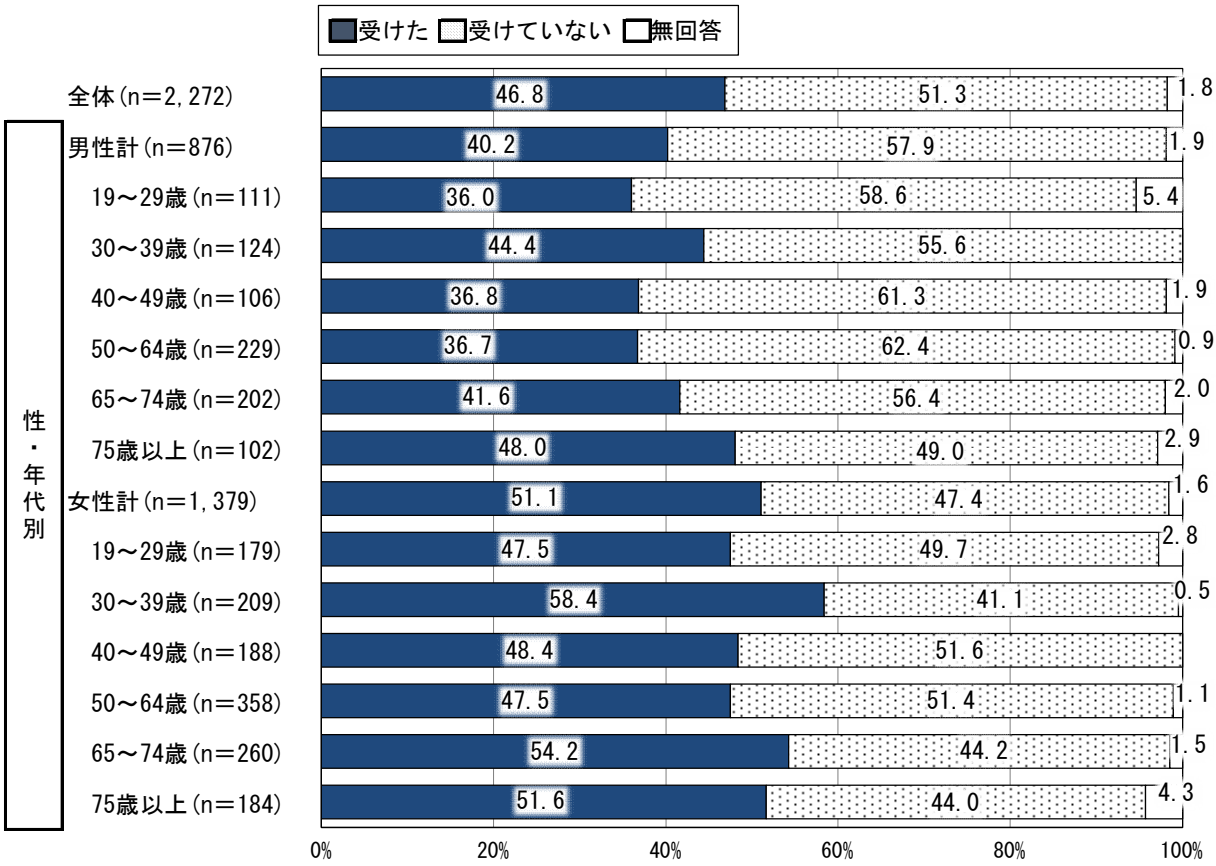
①歯科健康診査の受診状況

◆この1年間に歯科健康診査を受けましたか。(○は1つ)【19 歳以上問 54】

歯科健康診査の受診については、5 割近くの人が、調査回答日前 1 年間に歯科健康診査を受けています。

性別・年代別でみると、30 歳代女性の割合が 58.4%で最も高く、50～64 歳男性の割合が 36.7%で最も低いです。

19 歳以上の歯科健康診査の受診状況（性別・年代別）

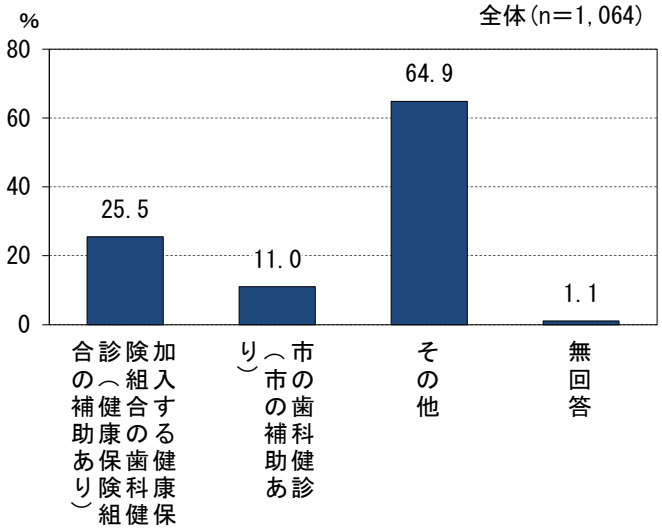


②受けた歯科健診の種類

◆どのような種類の歯科健診を受けましたか。(○はいくつでも)【19 歳以上問 54－1】

受診した歯科健診の種類については、「加入する健康保険組合の歯科健診」が 25.5%、「市の歯科健診」が 11.0%、「その他」が 64.9%となっています。

19 歳以上の受けた歯科健診の種類

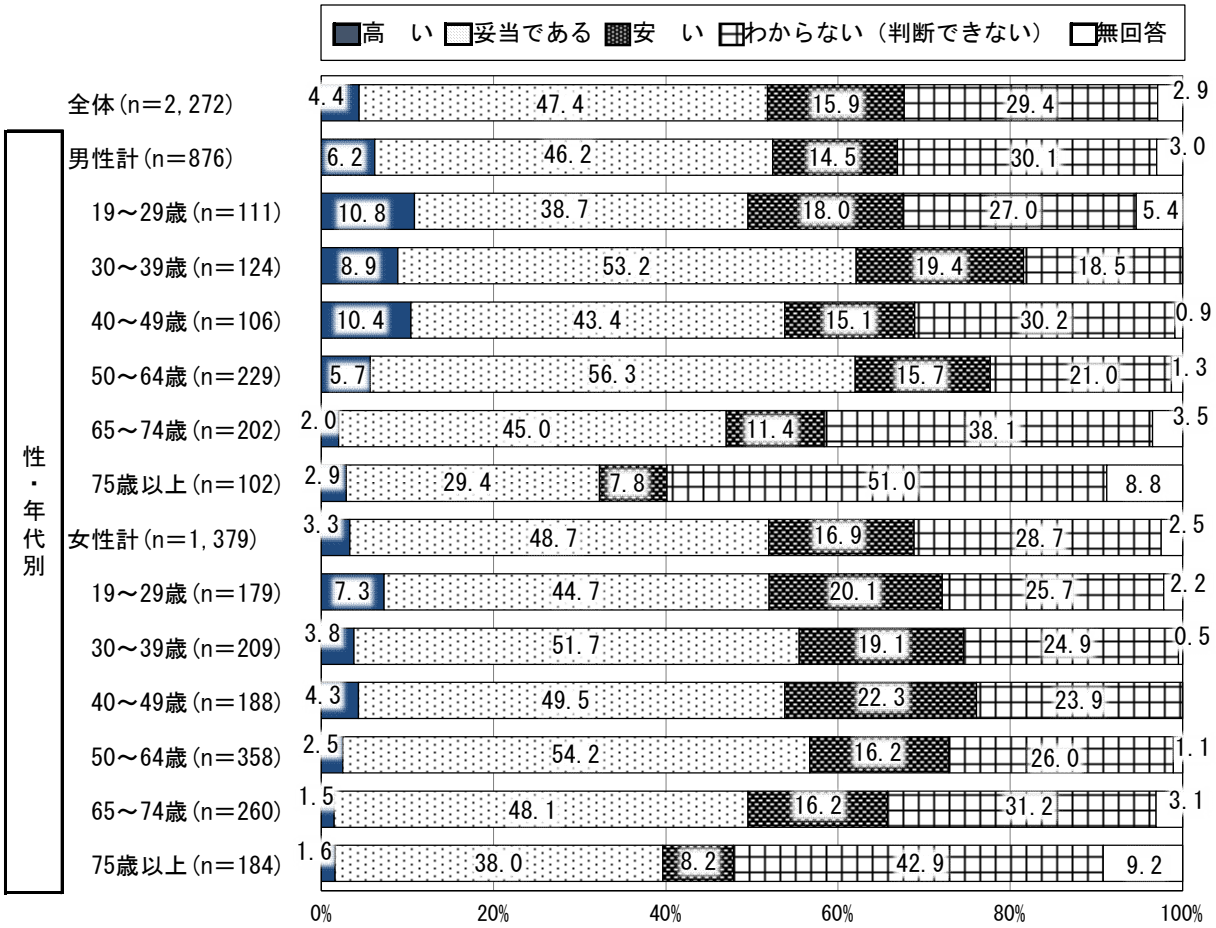


(5)歯周病(歯周疾患)検診受診料の妥当性

◆歯周病(歯周疾患)検診の検診料(500 円)について、どのように思いますか。(○は1つ)
【19 歳以上問 55】

歯周病(歯周疾患)検診の検診料(500 円)については、「妥当である」と考える人が最も多く、5割近くを占めています。「高い」は 4.4%、「安い」は 15.9%で、概ね肯定的に捉えられています。

19 歳以上の歯周病（歯周疾患）検診受診料の妥当性（性別・年代別）



(6)歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況

◆歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係について、次のことを知っていますか。
(○はいくつでも)【19 歳以上問 56】

歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係については、「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」が 83.5%で最も高く、次いで「歯、歯肉、口腔(お口)の健康は、全身疾患と関係がある」が 53.3%、「歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎(高齢者の誤嚥性肺炎等)の予防につながる」が 47.8%となっています。

性別・年代別で見ると、19～29 歳、30 歳代の男女いずれも「喫煙(たばこ)は歯周病(歯槽膿漏)に悪い影響を与える」ことを知っている人の割合が高く、「よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる」に次ぐ高い割合となっています。

19 歳以上の歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況(性別・年代別)

単位:%

		サンプル数	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる	歯、歯肉、口腔(お口)の健康は、全身疾患(動脈硬化、脳血管疾患、心疾患等)と関係がある	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎(高齢者の誤嚥性肺炎(ごえん)性(せい)肺炎)の予防につながる等)	喫煙(たばこ)は歯周病(歯槽膿漏)に悪い影響を与える	歯周病(歯槽膿漏)と糖尿病は相互に深い関係がある	無回答
全体		2,272	83.5	53.3	47.8	44.7	32.6	7.3
性・年代別	男性計	876	78.3	44.3	37.2	44.5	28.4	8.9
	19～29歳	111	75.7	39.6	29.7	48.6	27.0	12.6
	30～39歳	124	76.6	33.1	29.0	49.2	18.5	12.9
	40～49歳	106	81.1	36.8	31.1	43.4	22.6	9.4
	50～64歳	229	85.2	47.2	36.2	44.1	25.3	7.0
	65～74歳	202	78.7	54.5	42.6	44.1	40.1	5.0
	75歳以上	102	65.7	44.1	53.9	37.3	32.4	10.8
	女性計	1,379	87.1	59.2	54.7	45.0	35.3	6.0
	19～29歳	179	81.0	51.4	45.3	60.9	30.7	14.0
	30～39歳	209	89.0	55.5	48.3	55.0	36.8	7.2
	40～49歳	188	93.6	54.8	50.0	46.3	35.6	3.2
	50～64歳	358	90.5	69.0	59.8	45.5	40.8	3.1
	65～74歳	260	86.2	65.0	55.8	33.8	33.8	4.6
	75歳以上	184	78.8	48.9	64.7	32.1	29.3	7.6

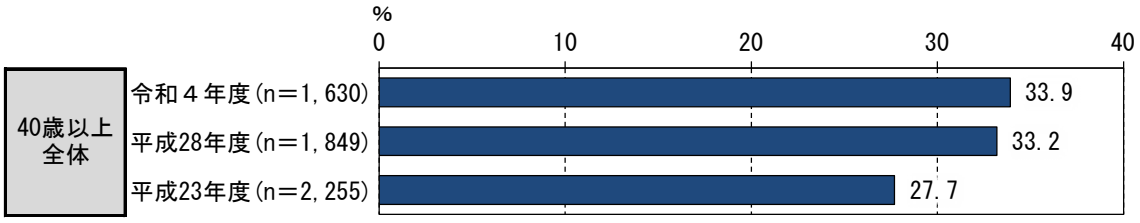
経年で比較すると、「歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある」や「歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる」の認知度は、平成23年度から令和4年度の11年間、平成28年度から令和4年度の6年間でみると、有意*に増加し、順位が入れ替わっています。

19 歳以上の歯・歯ぐきや口の健康と全身の健康との関係についての認知状況（経年比較）

	サンプル数	1　位	2　位	3　位	4　位	5　位
令和４年度 全体	2,272	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (83.5%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (53.3%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (47.8%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (44.7%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (32.6%)
平成28年度 全体	2,699	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (84.5%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (46.8%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (45.4%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (42.9%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (30.6%)
平成23年度 全体	3,351	よく噛んで食べることは肥満の予防や解消につながる (81.9%)	喫煙は歯周病に悪い影響を与える (43.1%)	歯、歯肉、口腔の健康は、全身疾患と関係がある (38.1%)	歯、入れ歯、舌等を清潔にする口腔ケアは肺炎の予防につながる (32.9%)	歯周病と糖尿病は相互に深い関係がある (24.4%)

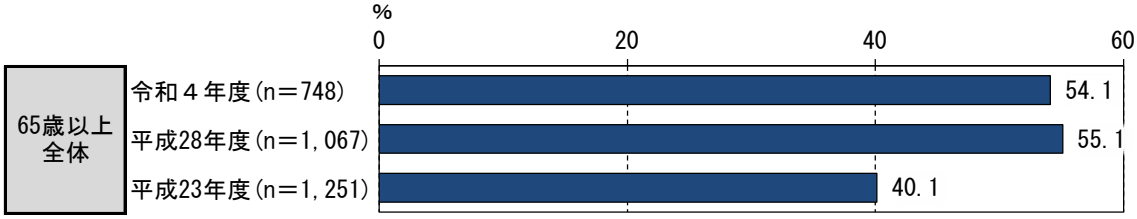
歯周病(歯槽膿漏)と糖尿病は相互に関係があることを知っている 40 歳以上の割合は平成 23 年に 27.7%、平成 28 年に 33.2%、令和 4 年度に 33.9%と、前々回、前回調査と比較すると、増加しています。

40 歳以上の歯周病（歯槽膿漏）と糖尿病の関係を知っている人の割合（経年比較）



口腔ケアの重要性の認知度として、65 歳以上の口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている人の割合は、平成 23 年に 40.1%、平成 28 年に 55.1%、令和 4 年度に 54.1%と、前々回調査よりは増加しているものの、前回調査と比較すると、減少しています。

65 歳以上の口腔ケアが誤嚥性肺炎を予防することを知っている人の割合（経年比較）



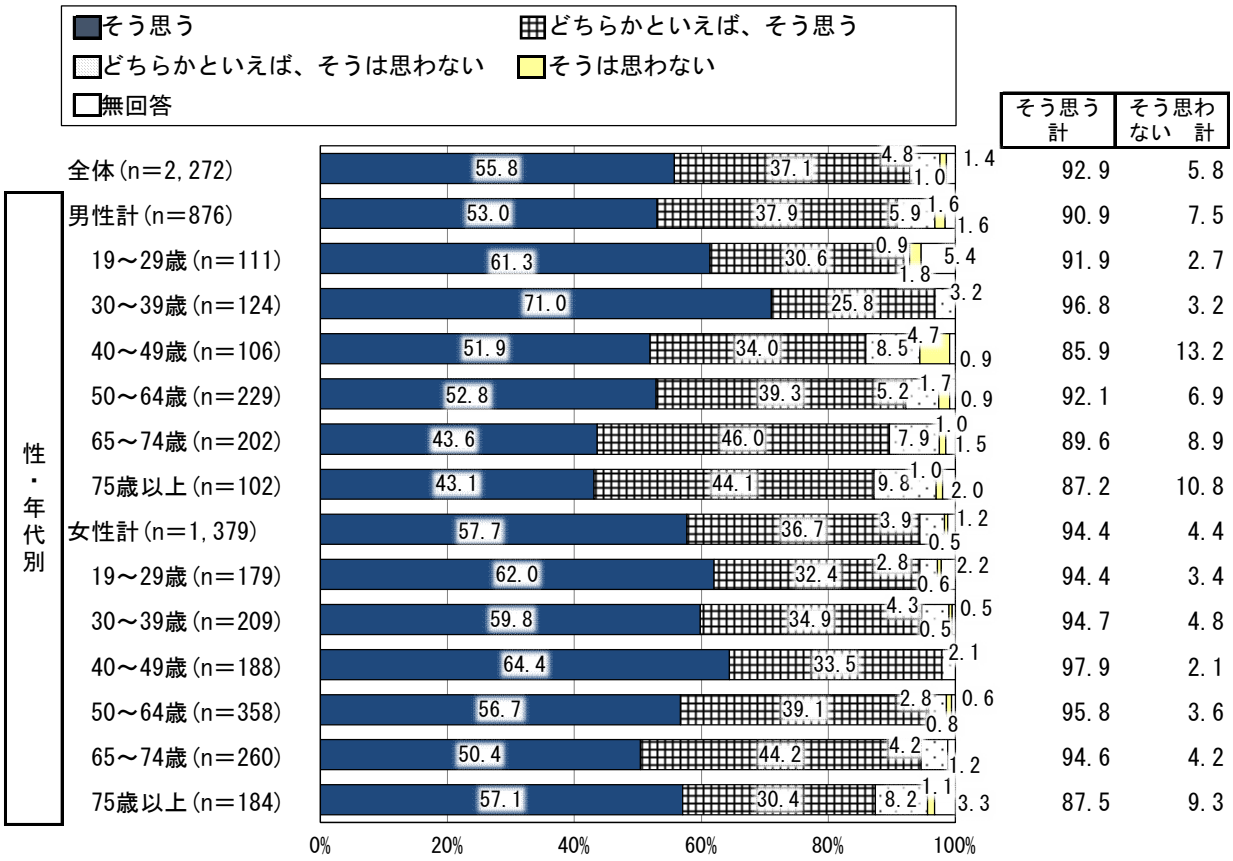
(7)毎日の食事がおいしいと思うか

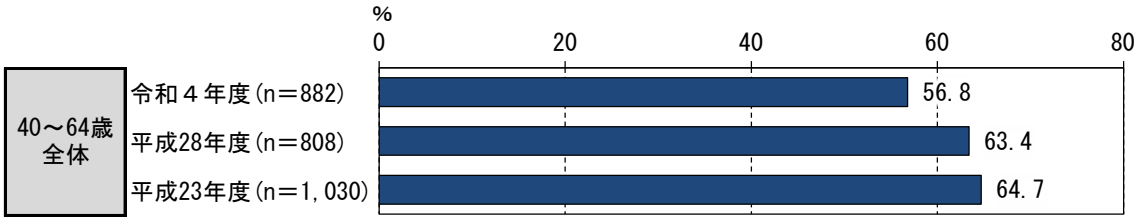
◆毎日の食事がおいしいと思いますか。(○は1つ)【19 歳以上問 57】

毎日の食事については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値『おいしいと思う』の割合は 92.9%で、「どちらかといえば、そうは思わない」と「そうは思わない」の合計値『おいしいと思わない』は 5.8%です。

性別・年代別でみると、『おいしいと思う』は男性より女性の方が1.9ポイント高く、特に40歳代の女性が 97.9%で最も高く、最も低いのは 40 歳代の男性の 85.9%となっています。

19 歳以上の毎日の食事がおいしいと思うか（性別・年代別）



40～64 歳の毎日の食事がおいしいかについて、「そう思う」の割合を経年比較すると、平成23年度から令和4年度の11年間、平成28年度から令和4年度の6年間でみると、有意*に減少しています。

40～64 歳の毎日の食事がおいしいと思う者の割合（経年比較）